

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和4年 3月 1日

事業所名：呉本庄つくし園

			はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・各クラス連携を取りながら工夫している。 ・限られたスペースを工夫して使っている。 ・共有スペースも多く、天候によってさらに制限されるときは、しんどさを感じる。	・子どもさんが活動しやすいよう、配置や導線を工夫して、スペースの調整を行っていきたい。
	2	職員の配置数は適切である	○		・基準よりは多く配置している	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・子どもの特性や実態に応じて、物理的構造化などの見直しをしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・できる限りこまめに消毒、拭き取りをしている。 ・遊具の破損など、危険と思ったらすぐに対処するように全員が気をつける必要がある。 ・おもちゃ、遊具、教室内は掃除と消毒を毎日し、環境設定も子どもの様子に合わせて変えている。	・細かなところにも、目配りができるよう、職員同士で声を掛け合って衛生管理に努めていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に広く職員が参画している	○		・問題や難しさに対して、日頃からクラスで話し合っている。 ・朝礼終礼の時間以外での話し合い、問題発生した時等、会議等を開き、改善するよう努めている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・保護者の話を丁寧に聞いて対応している。 ・毎年、実施しており保護者の意向を受けて、園内で検討し業務改善に向けて努力している。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報ホームページ等で公開している	○			・今年度も、保護者の方への資料配布する。 ・ホームページでも公開する。
適切な 支援の 提供	8	職員の資質の向上を行うために研修の機会を確保している	○		・月1回の職員研修。 ・外部講師による研修。 ・オンラインでの外部の研修にも参加したり、実施している。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成している	○		・年3回作成している。	・アセスメント方法の見直しなどを行い、今後も根拠に基づいた支援が行えるように、個別支援計画を作成していく。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・職員で勉強会は行ったが、まだ実践できていない。 ・これから使えるように勉強している。	・4月～5月にかけて発達検査等を実施し、日々の子どもの行動を観察したり、保護者の方からの情報などから評価している。 ・適応行動の状況を図るための標準化されたアセスメントツールを導入していきたい。
	11	個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内もの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		・支援計画会議を行い、家族支援、地域支援の内容等について検討し、家庭で取り組めることとして、個別支援計画に記入している。	・今後も子どもさん、保護者の方のニーズに沿いながら、個々に合わせた支援計画を作成していきたい。
	12	個別支援計画に沿った支援が行われている	○		・支援計画会議を行い、支援内容についての統一認識を確認しながら支援を行っている。	・今後も、計画内容を職員全員で把握し共通認識を持って支援できるようにしていきたい。
	13	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・クラスでその都度話し合いを行っている。	
	14	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			・子どもたちが楽しんでできる活動を、色々考えていきたい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	15	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて個別支援計画を作成している	○			
	16	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・前日か当日、必ず行っている。	・毎朝、その日の活動や、職員の動き、役割や、注意点などの確認をしている。
	17	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・その日のうちに、お互い気づいたことを伝え合っている。 ・クラス内で日々の振り返りをよくしている。	・子どもたちが帰った後で、クラス職員で振り返りを行い、改善に努めている。 ・情報や注意点などは職員間で共有している。
	18	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・ケース記録にしっかり記入している。	・支援内容について具体的に記録し、検証や振り返りを行い改善につなげている。
	19	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	○		・定期的にモニタリングを行い、支援計画の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	21	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・関係機関との情報共有を行い、連携して支援している。	
	22	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○			・必要に応じて、関係機関との連携を図ってきたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○			・必要に応じて、保護者と検討し主治医や協力医療機関との連携を取るようにしている。
	24	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			・子どもの情報提供のため書類作成し、情報共有に努め相互理解を深めるようにしている。
	25	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			・教育委員会や就学先の学校への書類提出を行い、支援内容等の情報を提供し、相互理解を図るようにしている。
	26	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所・発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・研修の報告は、朝礼・終礼で行っている。	・他の事業所や専門機関等と情報交換を行い、助言や研修を受けている。
	27	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		・交流保育を行っている。 ・コロナで機会減少。 ・コロナにより開催できないときもあったが、できるときは交流を図ってきた。	・今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、つくし園での交流保育1回しか行えなかった。
	28	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		・担当者が参加。報告は受けている。	
	29	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・おたより、個別指導、時には電話などで伝え合っている。	
	30	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		・家族支援はしているが、ペアトレという形では行っていない。 ・個別指導でここに対応。 ・保護者研修を行っている。 ・導入予定だったが、まだ取り入れていない。	・プログラムとしての家族支援は、まだできていないが、保護者研修や懇談、親子での個別指導などで、家族を支援するということを行っている。 ・外部講師を招いての家族支援プログラムを計画しているが、まだ実施できていない。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	31	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・契約時に実施している。 ・保護者からの問い合わせには丁寧に説明している。	
	32	児童発達支援ガイドラインの「個別支援支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ている	○		・保護者に個別支援計画を示しながら、丁寧に説明を行うと共に、質問等に対応し理解をして頂き同意を得ている。	
	33	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・個別指導を月2回行っている。 ・おたより、個別指導、電話などでのやりとりしている。 ・常時、保護者からの相談を受け付けて丁寧に対応するように努めている。	
	34	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・直接集まることはコロナのため難しかったが、WEBで開催されている。 ・来園してもらうことも難しいが、保護者会の開催のお知らせなどのバックアップをさせてもらっている。 ・コロナの影響で以前より減ってしまったように思う。	・保護者の皆さんが集まるという形では難しい状況があったが、どのように保護者会活動を行うかということについて、相談を受けたり別の方法などの提案をさせてもらった。
	35	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・その日のうちに対応するよう心がけている。	・相談や申し入れに対しては、相談の内容に応じて子供の担当職員や児発管、施設長等が迅速に対応するようにしている。
	36	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・毎月園だよりを発行し、発信している。	
	37	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	38	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・見える形で伝達するように努めている。	・保護者の方にも、状況に応じて、口頭だけでなく、紙面で情報を伝えるようにする。
	39	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・今年度は難しかったが、毎年夏祭りなどを行っている。 ・コロナ前は行っていた。今は開催が難しい。	・地域の方を招いての行事(夏まつり)は、コロナのため開催しなかった。
非常時等の対応	40	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに発生を想定した訓練を実施している	○		・月1回避難訓練を行っている。 ・マニュアル等については、いつでも見れるように玄関ラックに置いている。 ・避難訓練の様子を園だよりも掲載している。	・各種マニュアルの作成を行い、必要に応じて見直しを行い対応できるように体制は作っている。
	41	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・月1回避難訓練を行っている。 ・いろいろな形(火災、水害、地震等)で避難訓練。	・毎月避難訓練を実施しており、火災、地震、土砂災害等を想定して行っている。消防への通報訓練も実施している。
	42	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	43	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・食物アレルギーのある児童については、入園時に主治医の意見書を頂き指示に従って適切に対応している。	
	44	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・事例がある場合、すぐに情報共有ができるようにしている。 ・回覧し、共有している。 ・事例集は作成していないが、事業所内でヒヤリハットを記入した物を報告し、回覧している。	
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・月1回、リーダー会議で確認、年1回、全職員で研修している。 ・全職員での研修(年1回)があるが、もう1回くらい回数を増やしても良いのかもしれない。	・虐待についての自己評価や全職員による研修を実施し、虐待につながらない風通しの良い職場でありたいと考えている。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載している	○		・その都度確認している。 ・実施なし。	・必要な場合は、保護者への説明を行い、理解を得るようにしていきたい。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和4年 3月 1日

事業所名： 児童デイサービスつくしんぼ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		人数に対してのスペースは確保されているが、物理的構造化により、狭いと感じる所もあるが、子どもにとっては丁度良いと思われる。	今は、感染対策として、親子で療育の参加する頻度は少ないが、今後、日常が戻ると、環境設定を再構築する必要がある。
	2	職員の配置数は適切である	○		丁寧な支援ができる職員体制をとっている。	このままの職員体制がとれるように努めていく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		子ども達の状態や特性に応じて、空間が構造化され、子ども達が自発的に活動することができている。市民センター内ということもあり、バリアフリー化がなされている。	子ども達が「楽しい」「やりたい」と感じられるよう、活動内容に合わせて、スペースやエリアを工夫していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日の清掃に加え、感染症対策として、遊具や課題等への消毒もその都度行っている。	今後も感染症対策を徹底していく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に広く職員が参画している	○		職員全員で具体的な取り組みを考え、結果について共有し、必要があれば更に改善することを繰り返し行っている。	今後も、話し合いの機会を持ち、意見を出し合えるようにしていく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者からの意見もあり、南側の外窓ガラスの清掃の許可がとれ、実施することができた。事業所評価や意見をもとに話し合いを行い、業務改善につなげている。	今後も、意見を実直に受け止め、職員で話し合う機会を設け、対応についても検討していく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報ホームページ等で公開している	○		HPIにて公開するとともに、事業所内にも掲示している。	掲示の仕方を工夫し、情報を分かりやすく発信していく。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために研修の機会を確保している	○		つくし園全体で行う研修と事業所での研修を実施している。外部研修にも、オンラインで参加。	内部・外部研修に積極的に参加し、専門性を高めていく。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成している	○		保護者のニーズをもとに、情報収集-分析-プランがつながること、また、子どもの発達段階に沿った支援の視点で作成している。	保護者や子どものニーズをくみ取れる力や子どもの発達状況や特性を理解し、行動の分析ができるようスキルアップに努めていく。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために標準化されたアセスメントツールを使用している	○		個々の実態を把握するための聞き取り独自のアセスメントシートにより、利用開始時にアセスメントを行っている。ニーズや変化があった時に、再アセスメントを行っている。フォーマルアセスメントは、他機関で行った検査結果を参考にしている。	
	11	個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内もの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		本人支援については、アセスメントに基づき、具体的な目標設定を行っている。また、家庭でも取り組める視点を盛り込んでいる。	ニーズや実態に応じて、家庭や地域の中で取り組める内容を支援計画に取り入れる。
	12	個別支援計画に沿った支援が行われている	○		職員の共通理解のもと行われている。	
	13	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		毎朝、利用児の目標や支援のポイントを確認し、全体で共有した上で行っている。	
	14	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		コロナ禍で中止しているプログラムもあるが、造形活動等、季節に応じた活動を工夫している。遊具やおもちゃ等を定期的に入れ替えている。	今後も、子どもの実態に応じた遊具設定や活動の工夫を行っていく。
	15	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで個別支援計画を作成している	○		ゲームなどの遊びを通して、小集団での活動を行っている。	子どもの発達状況に合わせ、ルールを明確に示しながら、集団活動の機会を増やしていく。
	16	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎朝、細かく打ち合わせをし、職員の役割分担を決めている。	
	17	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		療育終了後、記録を行うとともに、気づいた点についてもすぐに報告するようにしている。	全体の場合だけでなく、気付いた時に声を出していく。
	18	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		療育終了後、気づいたこと、保護者からの相談内容、次回行いたい課題の内容等記録している。関係機関とのやり取りも記録している。	

		チェック項目				
	19	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	○		6ヶ月毎に保護者のニーズを聞き取り見直している。保護者の相談・要望があった時は、随時対応をしている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		担当者会議に参加後、全体で情報を共有している。	コロナ禍のため、会議への参加が減っているが、今後は事業所からも発信していく等、さらに積極的な参加をしていく。
	21	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		必要に応じて関係機関と連携をしている。	
	22	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				現在、対象となる子どもがいないため行っていないが、必要時には連携し、対応していく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				現在、対象となる子どもがいないため行っていないが、必要時には連携し、対応していく。
	24	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者・利用児の在籍している園からの要請があれば、必要に応じて保護者の許可のもと情報共有等を行っている。	今後も随時対応していくとともに、相談支援専門員へ働きかけ、関係機関で方向性の確認の機会を持てるようにしていく。
	25	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要に応じて保護者の許可のもと情報共有等を行っている。	
	26	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		今年度はコロナ禍のため回数は減っているが、専門機関と連携し、助言や研修を受けている。	他のセンターや事業所の状況を積極的に収集し、つながりを広げていく。
	27	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	地域の幼稚園・保育所との並行通園をしている利用児が多く、交流する機会は基本的に設けていない。	
	28	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		担当者が参加している。	
	29	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		コロナ禍のため、親子での通所の機会は限られているが、療育終了後、その日の活動内容や様子等を、直接伝えている。	
保護者への説明責任等	30	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○	ペアレント・トレーニングの形はとっていないが、子どもの特性や見立て、家庭での対応について伝えるようにしている。	
	31	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に、文書で説明を行っている。改訂時には、文書と掲示等により通知している。	
	32	児童発達支援ガイドラインの「個別支援支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ている	○		個別支援計画を見せながら、説明をしている。	専門用語を使わず、より分かりやす伝え方ができるように努める。
	33	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		親子での利用児には、保護者の方に積極的に話しかける等、話をしやすい雰囲気を作るよう心がけている。利用日以外でも相談対応ができることを掲示し、周知を図る試みを行った。	適切な助言や支援が出来るように職員のスキルの向上を図る。
	34	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	コロナ禍のため、保護者会等の活動は行えていない。	コロナの感染状況をみながら、どのような形で実施できるかを考えていく。
	35	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		面談や電話で、相談への対応を行っている。	
	36	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		日程や連絡事項についての掲示を行っている。	掲示の仕方を工夫し、情報を分かりやすく発信していく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	37	個人情報の取扱いに十分注意している	○		守秘義務についても職員研修等で周知している。資料等は鍵付きの棚に保管している。	
	38	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		コミュニケーションブックや視覚情報を活用したコミュニケーションを図るようにしている。	引き続き、相手の方に配慮した支援を行う。
	39	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	市民センターで開催される催しに参加し、事業所内でイベントを行っていたが、コロナ禍の為、今年度は不参加。	コロナの感染状況をみながら、市民センター内での催しに参加する。
非常時等の対応	40	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに発生を想定した訓練を実施している	○		マニュアルは掲示しており、年2回市民センター全体での避難訓練に参加している。災害時の職員の役割分担も決めている。怪我等が発生した際の連絡体制等は事務所に掲示している。	訓練を実施していることは、保護者に周知できていないため、訓練実施予定及び訓練終了後、掲示で伝える。
	41	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		市民センター全体での訓練に参加している。	
	42	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		契約時に確認。一覧にまとめ、職員全員で共有している。	状況や必要な対応を定期的に確認する。
	43	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アレルギーのある子どもには指示書を提出してもらっている。アレルギー表を作成して、誤飲食のないよう気をつけている。	
	44	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット事例が起こった時には、すぐに報告書を作成し、職員間で共有し、再発防止を図っている。	
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		年1回、園全体で、全職員を対象に研修を行っている。	
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載している	○		身体拘束についての共有意識は、職員研修で行っている。危険が伴う場面では、瞬間的に動きを止めることはあり、状況を保護者に報告している。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。